

教育の方法・技術

第4講 21世紀に求められる学力と学習環境

齋藤 陽子(岐阜女子大学)

第4講「21世紀に求められる学力と学習環境」

【目的】

現代の知識基盤社会において、子ども達に求められる資質能力を改めて問い直し、その資質能力を育む保育活動や授業等のために必要な学習環境について考える。

【学習到達目標】

- (1) 21世紀に求められる学力について説明できる。
 - (2) 資質・能力を引き出す授業の条件を説明できる。
-

これからの時代に求められる学力

- **21世紀の知識基盤社会で求められる学力**

- 他者と共に新たな知識を創造してゆく力

- **知識基盤社会**

- 様々な情報が溢れるの中で、自分なりに活用できるように「情報を統合して必要な知識を生み出す」必要性

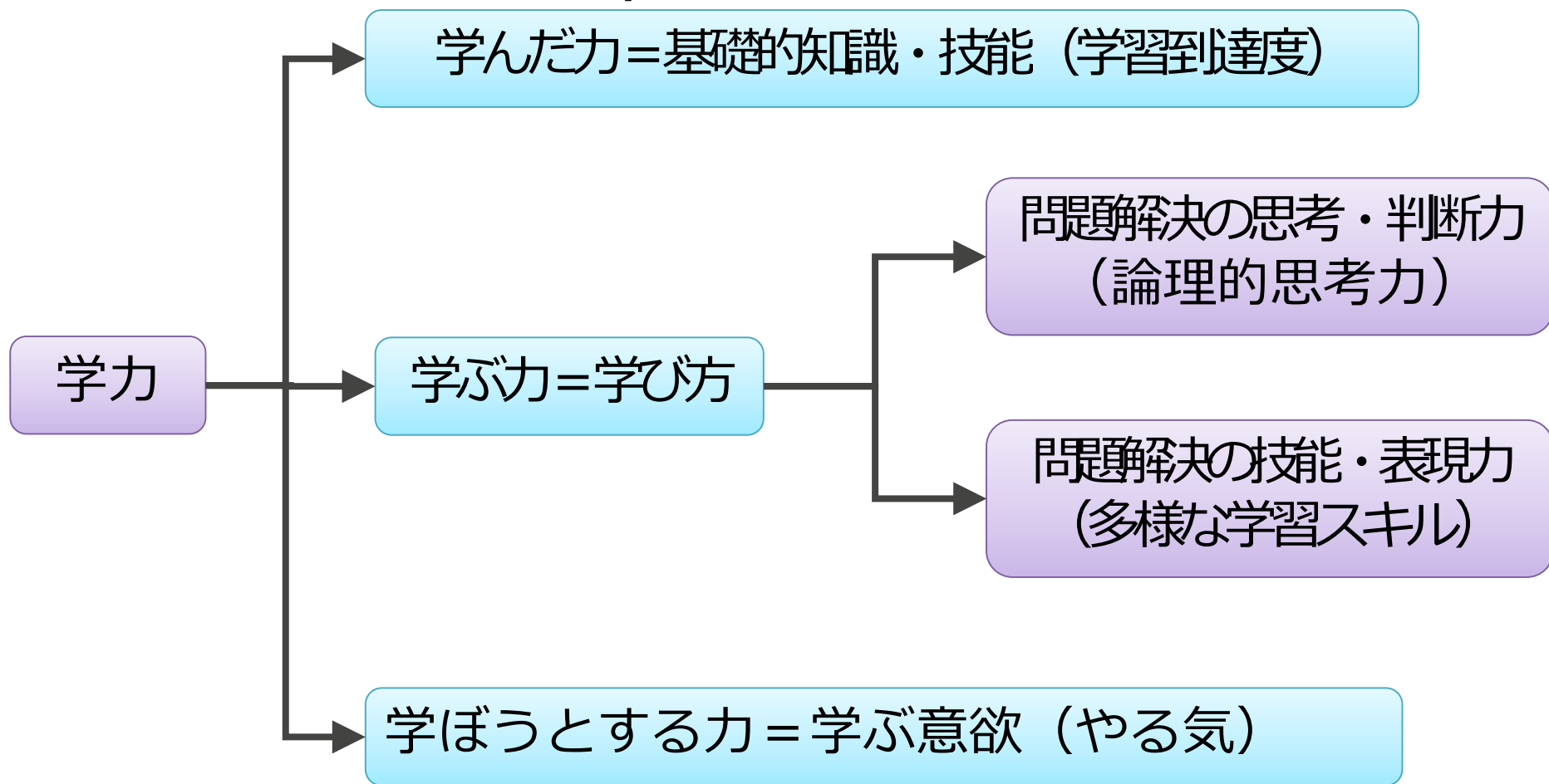
- **知のギャップ問題**

- 人類が知識生み出した故に抱えてしまった解の見えない問題（多文化共生、テロリズム、資源問題、地球温暖化、治療薬のない病気）に対しさらに知識を出し合う必要性

- 学校で学ぶ内容を超え、私たちよりも賢く

第4講「21世紀に求められる学力と学習環境」

学力の構造 (柴田, 1992)



キー・コンピテンシーと生きる力

● キー・コンピテンシー

- 社会・文化的，技術的道具を相互作用的に活用する力
- 自律的に行動する力
- 社会的に異質な集団で交流する力

● 生きる力

- 基礎・基本を確実に身に付け，いかに社会が変化しようと，自ら課題を見つけ，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，行動し，よりよく問題を解決する資質や能力
- 自らを律しつつ，他人とともに協調し，他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性
- たくましく生きるための健康や体力

第4講「21世紀に求められる学力と学習環境」

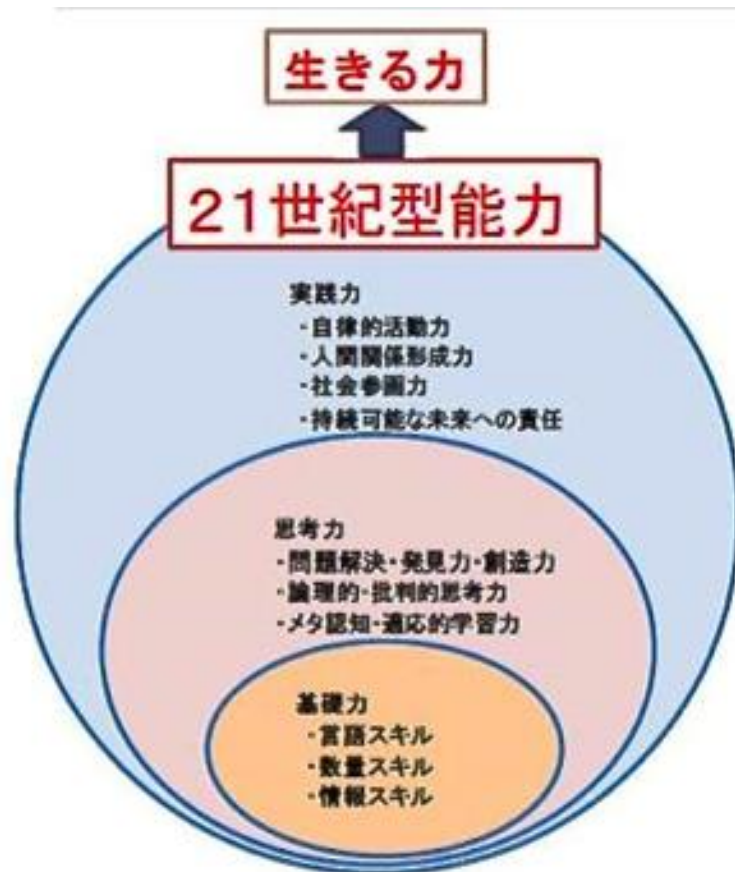
21世紀型スキル

2009年度発足した国際団体ATC21S(21世紀型スキルの評価と教育プロジェクト)

「ある目標を解決するために他者と共に様々なテクノロジーも活用しながら知識を生み出し、またそのプロセスを通じて新たな目標を発見するような知識を生み出し続けるスキル」

思考の方法	1. 創造性とイノベーション
	2. 批判的思考, 問題解決, 意思決定
	3. 学び方の学習, メタ認知
働く方法	4. コミュニケーション
	5. コラボレーション (チームワーク)
働くためのツール	6. 情報リテラシー
	7. ICT リテラシー
世界の中で生きる	8. 地域とグローバルのよい市民であること (シチズンシップ)
	9. 人生とキャリア発達
	10. 個人の責任と社会的責任 (異文化理解と異文化適応能力を含む)

21世紀型能力



- ①思考力を中核とし、
それを支える
- ②基礎力と、
使い方を方向づける
- ③実践力の三層構造

21世紀型学力を育成する授業への変革

■ 国立教育政策研究所

- 21世紀型能力

「深く考える（思考力）」を中心に、「道具や身体を使う（基礎力）」と「未来を創る（実践力）」を学習活動を工夫して一体的に育成する

■ 学習指導要領

- これからの資質能力：

他者と協働しながら創造的に生きていく

- **主体的・協働的な学習活動**の導入

- 学習活動を効果的にするための教育課程編成（**カリキュラム・マネジメント**）の工夫

授業・教育課程のすがた

■ 学習活動を設計する上での2つのモデル

- 知識創造モデル
 - 新たな知識を生み出す、前向きアプローチ
- 知識習得モデル
 - 枠組み内の知識を覚えて使うのみ、後戻りアプローチ

■ 4つの知識観(A~D)

- 知識創造モデル：Dで一体的に
- 知識習得モデル：A~Cを組み合わせて、順番に

第4講「21世紀に求められる学力と学習環境」

授業・教育課程のすがた

	教師中心授業	学習者中心授業
教科の内容を中心に	A：知識の詰め込み	B：深い内容理解
資質・能力 を中心に	C：スキルの訓練	D：スキルを引き出し深い 内容理解

授業・教育課程のすがた

先生方の改革は、どちらのモデルでしょうか？

■付加型モデル

- 授業の一部に「D」を加え、のこりは「A」「B」「C」を残したまま
- 知識習得モデルからなかなか変容できない

■変容型モデル

- 多くの授業を「D」に変え、「A」「B」「C」をなくしていく
- 知識創造モデルへの変容を促す

評価のすがた

先生方の改革は、どちらのモデルでしょうか？

■知識創造モデル

- 伸びをみる「変容的評価」
 - 授業の前と後でどれだけ変容したかの学習の深まりを見る（ワークシート等で見える化）
 - 個々人への次の学びへの支援や、次回の授業改善のヒントに繋がる

■知識習得モデル

- ペーパーテストなどの「総括的評価」
 - 順位付け、横並びの評価
- 習得チェックの「形成的評価」
 - 教師の期待した目標との差分の評価

課題

1. 知識習得モデルと知識創造モデルの違いを説明しなさい。
2. 知識習得モデルから知識創造モデルへの授業改善について、具体例をあげて説明しなさい。
3. 変容的評価について、具体例をあげて説明しなさい。

第4講「21世紀に求められる学力と学習環境」

【目的】

現代の知識基盤社会において、子ども達に求められる資質能力を改めて問い直し、その資質能力を育む保育活動や授業等のために必要な学習環境について考える。

【学習到達目標】

- (1) 21世紀に求められる学力について説明できる。
 - (2) 資質・能力を引き出す授業の条件を説明できる。
-

教育の方法・技術

第4講 21世紀に求められる学力と学習環境

齋藤 陽子(岐阜女子大学)